

令和 6 年度

運営に関する計画

最終評価 (案)

大阪市立阪南小学校

令和6年度 学校経営のビジョンについて

大阪市立阪南小学校

学校教育目標

豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成

めざす子ども像

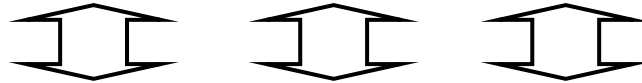
よく考える子

心や体をきたえる子

考えを実行にうつす子

学校経営の重点

心豊かに力強く生き抜き、未来を切り拓く力を育む教育活動の推進



具現化への手立て

【安全・安心な教育の推進】

- ◇ 自他を尊重する望ましい態度の育成
- ◇ 素直な心で互いに支えあう集団の育成

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ◇ 主体的・対話的な学習指導の展開
- ◇ 知識・技能の着実な定着と、思考力・判断力・表現力の育成
- ◇ 運動に親しむ機会や場の工夫と運動に取り組む意識の向上
- ◇ 命の大切さを知り、健康で安全な生活を実践する態度の育成

【学びを支える教育環境の充実】

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- いじめへの認識を深め、いじめの未然防止・早期発見の取り組みを進めることで、「いじめ(暴力をふくむ)は何かあってもしない」という意識を高めることができた。しかし、意識は高まっても、行動が伴っていない場合がある。

友達や自分の「よいところさがし」を数年間に渡り設定して行っていることもあり、児童は友だちや自分の良いところを見つけ、言葉で伝えることが自然とできるようになっている。児童一人ひとりが自分をかけがえのない存在であることに気づける取り組みを今後も進める必要がある。

不登校または不登校気味な児童について実態把握を行い、教職員間で情報を共有しながら支援を行ってきた。家庭との連絡も定期的に取り合い、可能な限り児童に合わせて登校しやすい状況を整え、繋がりを築いていく。

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、児童の実態に合わせてプリントやデジタルドリルを活用してきた。「確認シート」を活用し、各単元で習得すべき知識・技能が定着しているかを確認し、児童一人ひとりの結果を見て、個別指導を進めていく。

一人ひとりに意見や考えを持たせる時間を十分に確保し、自分の考えを持った上で、ペアやグループで話し合う場を設定したため、全体の間でも安心して考えを伝えることができる児童が増えてきている。話し合いの目的やポイントを明確にすることで、より話し合いが深まるようにする。

全学年、週2回の英語のモジュール学習を行い、歌や動画だけでなくゲームなども用いて児童が楽しんで取り組めるようにしてきた。今後、研修を重ねて英語の授業研修やモジュール学習の研修を計画的に行い、指導力向上に努める。

運動場の使用時間を学年でローテーションを組み、安全に配慮して場を設定する。使用できる器具を整備し、児童は様々な活動をすることができるよう場を整える。

令和4年度の小学校学力経年調査における標準化得点は、前年度のポイントを6年生は維持、5年生は向上、4年生は減少するという結果になった。また、正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上減少することができた。さらに、正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、5年生は増加し、4, 6年生については減少する結果となった。すべてにおいて目標を達成することができなかったことは今後の課題である。また、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、デジタルドリルの活用、3年生以上の習熟度別少人数指導等、個別最適化された学びの実現に取り組み、下位層の児童の減少を図る。

- 児童の発達段階に応じて、デジタル教材を活用してきた。さらに、全学年がオンライン授業の体制を整え、学級休業中や欠席児童に対し、1日2時間程度のオンライン授業を行っている。設備やネット環境など配信しやすい環境が整い、オンライン授業をスムーズに進めることができるようになった。今後は、より有効的な活用方法について検討していく必要がある。

様々な改修等の環境整備を進め、その内容については学校だより「阪南の風」に載せ、地域・保護者等に発信した。また、学校ホームページにも環境整備について記事を適宜アップデートし、改修等により安全性や快適性の向上についても伝えられるようにしてきた。今年度も、新しくなった教室等の環境を整備すると共に、管理方法を徹底し、整備して使いやすくなった状態を維持していきたい。また、教育活動に有効的な施設整備の活用方法を考えていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.2%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1.01ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.99ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事 ICT 活用が適さない日数を除く）
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を81.5%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.2%以上にする。

学校園の年度目標

- ① 令和6年度末の児童アンケートにおける「いじめ（暴力行為をふくむ）は何かあってもしない」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ② 令和6年度末の児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上の水準を維持させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1.01ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.99ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ① 令和6年度の小学校経年調査の国語科における標準化得点を、前年度のポイントを維持、もしくは向上させる。
- ② 体育科の学習や日頃の運動に関する意識調査を2回（前期・後期）実施し、肯定的な回答の割合を前期と同じ割合に維持、もしくは増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事 ICT 活用が適さない日数を除く）
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を81.5%以上にする。

学校園の年度目標

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事 ICT 活用が適さない日数を除く）
- ② 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・ いじめへの認識を深めるための教育活動を進めてきた。児童アンケートにおいて「いじめ（暴力をふくむ）は何があってもしない」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が 98.8%と高い水準を維持することができた。しかし、相手を傷つける言動は見られ、いじめが完全になくなったわけではない。引き続き「いじめ」に対してどんな理由があっても許されることではないという意識を高める必要がある。
- ・ 友だちや自分の「よいところさがし」を行う場を設定し、優しさが伝わる言葉遣いについて指導を続けてきた。「自分にはよいところがあると思いますか」「友だちの気持ちを考えて声かけしていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が 92.9%と高い水準を維持することができた。言葉遣いを大切にし、互いに認め合う関係づくりを今後も続けていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比は、3年 1.15 ポイント、4年 1.10 ポイント、5年 1.09 ポイント、6年 1.10 ポイントと、どの学年も全国平均を上回る結果であった。基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、ノートや発言、単元末テストをもとに児童の理解度を把握することに努めた。児童の実態に合わせて、プリントやデジタルドリルを活用し、定着を図った。
- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比は 0.98 であり、前年度より男女ともに向上している。自分の体力・運動機能を把握し、目標をもって取り組むことができるよう、個々の意識改善を行った。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 学習者用端末を低学年から段階的に活用することで、児童が日常的に活用することができるようになってきている。しかし、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業時数の割合は、目標より低い結果となった。今後も、有効的な活用方法を全体で共有していく。
- ・ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合は 100%であるが、教職員一人当たりの平均時間外勤務時間は前年度と比べると増加している。校務分掌を細分化し一人当たりの業務の負担を減らすことができるようにする。

大阪市立 (学校園名) 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.2%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① 令和6年度末の児童アンケートにおける「いじめ(暴力行為をふくむ)は何があってもしない」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>② 令和6年度末の児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上の水準を維持させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【いじめへの対応1】</p> <p>「いじめについて考える日」や年3回の「いじめアンケート」の実施等により、いじめへの認識を深め、いじめの未然防止・早期発見の取り組みを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習もふくめ、いじめについて年3回以上、学級全体で学習する。 ・児童アンケートにおける「いじめ(暴力をふくむ)は何があってもしない」の項目について、「当てはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答える児童の割合を90%以上の水準を維持する。 	B
<p>取組内容②【道徳教育の推進④】</p> <p>様々な場面で友だちや自分の「よいところさがし」を行うとともに、優しさが伝わる言葉遣いをすることで、学級・学年等の仲間づくりを進めていく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」「友だちの気持ちを考えて声かけしていますか」の項目について、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答える児童の割合を85%以上の水準を維持する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>年度目標に向けて、取り組み内容を学年・学級の実態に応じて学校全体で進めてきた。</p> <p>年度目標①の後期児童学校アンケートで、肯定的な回答をした児童の割合は、98.8%(前期97.6%)と高い水準を維持している。</p> <p>年度目標②の後期児童学校アンケートで、肯定的な回答をした児童の割合は、92.9%(前期87%)と高い水準であった。</p>	

<p>【取組の進捗状況】について</p> <p>①【いじめへの対応】</p> <p>「いじめについて考える日」の設定や道徳科の学習等で、いじめへの認識を深めることができている。また、学期に1回のいじめアンケートで個別に丁寧に聞き取ることや日頃から児童の様子や言動を注意深く見ることで、未然防止・早期発見に努めることができている。心の天気や相談機能を活用し、児童の声をひろいやすくなっている。</p> <p>②【道徳教育の推進④】</p> <p>「よいところさがし強調週間」では、友だちのよいところ、自分のよいところを見つけることができていた。また、強調週間だけではなく、終わりの会などの日々の学校生活の中や道徳科の学習等で、友達のよいところを見つけ、互いに認め合う姿が見られた。</p>
次年度への改善点
<p>【年度目標】について</p> <p>令和6年度末の児童アンケートにおける「いじめ(暴力をふくむ)は何があってもしない」の項目について、目標を大きく上回る 98.8%の児童が「当てはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答えた。しかし、相手を傷つける言動でトラブルになることや落書き等もあるため、次年度引き続き「いじめ」に対してどんな理由があっても許されることではないという意識を高める必要がある。</p>

大阪市立 (学校園名) 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1.01ポイント向上させる。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.99ポイント向上させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① 令和6年度の小学校経年調査の国語科における標準化得点を、前年度のポイントを維持、もしくは向上させる。</p> <p>② 体育科の学習や日頃の運動に関する意識調査を2回(前期・後期)実施し、肯定的な回答の割合を前期と同じ割合に維持、もしくは増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【平均正答率の対全国比(国語)⑤】</p> <p>国語科を中心に基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学期ごとの評価問題の平均正答率が70%以下の児童の総数の割合を、同一母集団において、年度当初より減少させる。</p>	B
<p>取組内容②【体力合計点の対全国比⑧】</p> <p>児童が運動に親しむ機会や場の工夫に取り組むことで、運動に関する意識の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和6年度の児童アンケートにおける「運動や体を動かすことが好きだ」「休み時間は外で遊んでいる(遊ぼうと思っている)」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前期と同じ割合に維持、もしくは増加させる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した。前年度より4年: +0.06ポイント、5年: +0.02ポイント、6年: -0.01ポイントという結果となった。</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比は、0.98であった。前年度と比べ男子+0.02ポイント、女子+0.05ポイントであった。男女ともに前年度より向上しているが、目標とする対全国比の0.99ポイントに0.01ポイント届かなかった。</p> <p>① 2学期末の評価問題では、1学期に比べて平均正答率が70%以下の児童の総数の割合が、国語科11.2%で3ポイント減ったが、算数科は17.9%で8.4ポイント増加した。</p>	

② 学校アンケートにおいて、肯定的に答えた児童の割合は、「運動やスポーツをすることが好きだ」が 90.3%で 6.8 ポイント、「休み時間は外で遊んでいる（遊びたいと思っている）」が 82.1%で 16.8 ポイント増加した。

【取組の進捗状況】について

取組内容①【平均正答率の対全国比（国語）⑤】

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、ノートや発言、単元末テストをもとに児童の理解度を把握することに努めた。児童の実態に合わせて、プリントやデジタルドリルを活用し、定着を図った。国語科では視写を行ったり、算数科では計算問題を繰り返し復習したり、その他教科では資料の読み取りなどの読解にも力を入れるなど、様々な学習場面での工夫を行った。

一昨年度から引き続き、一人ひとりに意見や考えを持たせるために、考える時間を十分に設定し、自分の考えをノートやワークシート、発表ノートなどにまとめさせた。児童が、考えをより深められるよう、自分の考えを振り返ったり、友だちの考えと比べたりするような場を設定し、取り組んでいく時間を十分にとれるようにした。また、そのための発問・声掛けも精選して行っていた。支援が必要な児童には選択肢を与えたり、キーワードとなる言葉を示したり、今までのノートを振り返らせたりと様々な支援を行った。自分の考えを持った上で、話し合う場を設定することにより、全体の間でも安心して考えを伝えることができる児童が増えてきた。話し合いの目的やポイントを明確にすることで、より話し合いが深まった。また、自分の意見を伝えるのが苦手な児童も、教室に掲示されたハンドサインや話型を見ながら自分の意見を伝えようとしている。話し合いの持ち方も、ペアや 3 トーク、グループ、全体などいろいろな方法を吟味し、児童に合った方法で行うように工夫し、学びあい高めあうことができるように取り組んだ。

その結果、2学期末の評価問題では、平均正答率が 70%以下の児童の総数の割合が、国語科 11.2%で 3 ポイント減ったが、算数科は 17.9%で 8.4 ポイント増加した。また、学校アンケートの結果、「漢字を書く力がついてきている」は 93.8%、「計算する力がついてきている」は 95%、と、共に 9 割以上の児童が肯定的に答えている。

取組内容②【体力合計点の対全国比⑧】

運動場の使用時間を学年でローテーションを組み、安全に配慮して遊ぶことができるよう場を設定している。使用できる器具やボールの種類を増やしたり、遊ぶゾーンを分けたりすることで、児童は様々な活動に興味を持って行っている。外遊びができる時間は外で体を動かすよう促したり、意欲を掻き立てるようなカードを活用したり、教員と一緒に運動場で遊んだり、運動に関する意識の向上を行っている。毎週の集会で、他学年の児童と共に体を動かしながら楽しめる遊びやゲームを行ったり、委員会の発案で「なわとび週間」を行ったりした。前期に比べ気候も過ごしやすくなり、自然と外で体を動かす児童も増えた。

体育科の学習の中では、体幹を鍛えるような動きを取り入れるなど体づくりへの工夫をしたり、主体的に運動に親しむことができるよう、ループリックを作成し、見通しをもって計画的に学習を行うことができるようにしたりしている。新体力テストを行う際には、自分の体力・運動機能を把握し、目標をもって取り組むことができるよう、個々の意識改善を行った。また、ゲストティーチャーを招いて学習を行うことで、運動への意欲が高まるきっかけとなった。

その結果、【年度目標】について述べた結果となった。

次年度への改善点

【年度目標】について

前期の結果を考察し、さらに向上もしくは維持できるよう、指導を続ける。

【取組の進捗状況】について

- ① 学期ごとに評価問題を活用して、学習内容についての習得度を測ってきた。平均正答率が70%以下の児童の総数の割合を教科によっては減少させることができているが、学年・学級によってばらつきもあり、二極化も解消されたわけではない。今後も引き続き、児童に合った学習を提案し、定着するよう繰り返し学習し積み重ねていくことを続けていく必要がある。また、経年調査の結果も分析し、課題を見つけていく必要がある。

教員は今後も研修に参加し授業力向上を目指すとともに、児童同士が学びあい、高めあえるような授業づくりを心掛ける。

- ② 運動やスポーツに対する気持ちは、ここ数年の取り組みによりかなり高まってはいる。今後も声掛けや学習カードなどを取り入れたり、様々な取り組みを行ったりし、体を動かすことへの楽しみを感じることができるよう促していく。

大阪市立 (学校園名) 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事 ICT 活用が適さない日数を除く)</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を81.5%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事 ICT 活用が適さない日数を除く)</p> <p>② 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を85%以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進⑨】</p> <p>デジタル教科書(算数・英語)や、ニューワイド学習百科事典などのICTの環境を整え、児童が学習者用端末を積極的に活用できる場を設定する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学習者用端末の使用状況調査における、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を年間授業日の50%以上にする。</p>	C
<p>取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり⑩】</p> <p>会議の持ち方や(回数、方法、内容)や電話対応などを見直し、より効率的な働き方を推進していき、教職員はもとより、保護者や地域の理解を得る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>超過勤務時間を大阪市平均より下がっている月を6か月以上にする。</p>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>① 学習者用端末の使用状況調査における、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業時数の割合は、35.7%と目標より14.3%低い</p> <p>② 基準2を満たす教職員の割合は100%</p> <p>【取組の進捗状況】について</p> <p>取組内容①【教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進⑨】</p> <p>学習者用端末を低学年から段階的に活用することで、児童が日常的に活用できるようになってきている。ただし、学びのポータルや心の天気などの機能の活用については課題が残った。</p>	

○端末活用のための取り組み

- ・デジタル教科書（算数・英語）の活用
- ・ニューワイド学習百科事典（１・２年）
- ・デジタル新聞の活用（５・６年）
- ・なるほどエージェント（全学年）
- ・ビスケット、スクラッチを活用したプログラミング教育
- ・インターネットを活用した調べ学習
- ・発表ノートやパワーポイントを活用した学習のまとめ
- ・SKYMENU やクラスルームを活用した協同的な学びの場の設定
- ・授業や家庭学習でデジタルドリルやナビマを活用した子に応じた課題の設定
- ・欠席児童対象の Teams を用いたオンライン授業
- ・Teams を活用した学校アンケートの実施。
- ・学びのポータルのお知らせ機能を用いて児童へ委員会活動やクラブ活動の連絡

デジタル教材については、定期的に研修を行いより有効的な活用方法を教職員間で広げていく。児童が学習者用端末を安定して使用できるようにフローチャート化して担任担当がすぐに対応できるようにしている。

取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり⑩】

内容を精選し会議を必要最小限の回数におさめている。１７時３０分より留守番電話に設定して電話対応の時間を見直すとともに、教職員間での電話対応の内容の共有方法を整理することで対応時間が減少している。また、ミマモルメアプリの欠席連絡や保護者への一斉メールなどの機能を活用することでも朝の電話対応や放課後に保護者に連絡する時間が大幅に減少している。さらに、定時退勤日を週に１回設定し、超過勤務の減少を図っている。

教職員一人当たりの平均時間外勤務時間は前年度と比べると増加しているが、第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準２を満たす教職員の割合は１００％を達成している。

次年度への改善点

【年度目標】について

ICTの活用については、引き続きデジタル教材の有効的な活用方法を検討していく。タブレットの持ち帰りについては、保護者からの意見を参考に、児童に負担のない方法を検討する必要がある。

今後もカリキュラムや学校行事、会議のもち方の見直しと週１回の定時退勤日の設定を進め、職員の勤務時間に関する基準２を満たす教職員の割合を維持できるようにする。来年度については、授業時数を見直し、さらに教員の負担軽減を図る。

【取組の進捗状況】について

- ① デジタルドリルやパワーポイントなどを活用して学習での活用を十分に進めることはできた。今後は、こころの天気の利用を進め児童の心情把握をしやすいようにするなど学習以外でもさらに活用する方法を教職員に進めていく。
- ② 校務分掌を細分化し一人当たりの業務の負担を減らすことができるようにする。会議の参加メンバーを精選し、会議の質を向上させることで働き方改革を進める。長期休業中の研修等のもち方を工夫し年次休暇やテレワークを取りやすくする。